Ⅰ　事業の状況

1　総　括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的とし、設立以来半世紀以上にわたって、文部科学省の管下で研究助成等の事業を進めてきました。13年前の平成24年からは公益財団法人に認定されて内閣府の所管となり、学校などへの研究助成、研究成果の刊行、野外教育活動の推進に加えて、医学・医療e－ラーニングや世界点字作文コンクールなどへ公益事業を拡大してまいりました。

本年度は、新型コロナウィルス感染症流行は減少しましたが、インフルエンザが秋口より大流行し予防に追われた年でもありました。そうした中で、次の事業を行いました。

◎　小・中学校や研究団体等への研究助成では、小学校2校、中学校4校、6研究団体、1学会に助成を行いました。

研究内容のテーマを挙げると、「主体的な問題解決による資質・能力の育成」「問題発見・解決能力を育む」「データサイエンス授業の実践～感性に基づく意思決定の支援～」「栽培活動を軸とした地域とつながるふるさと学習」「持続可能な地域とともにある学校体制の構築」「防災意識を高め災害に強い市を創る生徒の育成」「学習評価の改善と充実のための研修プログラム開発」「モバイル・アクティブ・ライブラリとしてのグローバル・ワークショップの実践と効果」「科学のまなざしを育む理科授業の開発と実践」「自立した学びを促すカード学習法の実践」「異文化間の子供たちの幼少接続期での言葉遊びの実践的研究」「実践と対話で算数授業を深める」「家庭教育に関する理論的・実践的研究」など生徒の自律や学びの向上を高めるものを中心に多様でした。

◎　研究成果は「教育研究情報」誌に掲載して発行、当研究所のホームページにもアップして、成果の普及を図りました。

◎　野外教育では、自然体験活動の指導者を対象に、教材（アイオレシート）を使い実技指導中心の講習会を開催していましたが、今年度も中止といたしました。従い「野外教育情報」も今年度は発行しませんでした。

◎　医学・医療分野では、e-ラーニングを推進するMEDI@（メディアット）システムのもと、セミナー等の講演・講義の収録・配信、e-ラーニング利用への支援、資格認定のためのe-ラーニング利用（日本リハビリテーション医学会）、専門医養成のための支援（日本専門医機構）などを行いました。

◎　視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の今年度の支援は資金の不足により中止いたしました。

今後とも公益事業の着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

令和7年度：助成事業

A.研究実践校への助成

時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざして地道に意欲的な研究に取り組む学校を選んで、支援のための研究助成を行う。

○理科・算数教育 （東京都） 府中市立府中第三小学校 （関 修一 校長）

〒183-0021 東京都府中市片町3－5

研究主題 「主体的な問題解決による資質・能力の育成」

～既習や経験、友達とのつながりに価値を見いだす学習を通して～

＊「事象提示や問題の設定の場面」「検証計画に立案や望ましい結果の想定」「結果の整理の場面」に焦点を当てた体験活動を含めた授業づくり研修を実施した。また、理科の授業づくりと学習評価についての講話を聴き、理科の学習指導力の向上を図った。

低学年は算数、中学年以上は理科で、全学年で授業研究に取り組んだ。本時で目指す児童の学びの姿を明確にし、「既習の内容や生活経験とつなげる手立て」と「友達の考えや学びとつなげる手立て」を提案した。児童の学びの姿を丁寧に見取り、よりよい授業に向けて意見交換を行った。

理科学習に関する同一の質問調査を年度当初と年度末の２回実施し、結果を比較分析することで、児童の学習意識や児童が捉える理科学習の意味や価値の変容を評価した。

［児童総数 773 名・職員総数 78 名］

○算数教育 （兵庫県） 淡路市立一宮小学校 （藤稿 英子 校長）

〒656-1512 兵庫県淡路市北山1600

研究主題 解決能力を育む ～みる力を磨く～

・算数科における児童の「問題発見・解決能力」の育成
・教師の「みる力」の研鑽（教材解釈・児童理解）
・「フローチャート型指導案」による授業づくり（授業改善）

＊全国学力・学習状況調査等、ここ数年間の学校全体の状況から、本校児童の実態として、いわゆる基礎的・基本的な知識及び技能はある程度身についているものの、題意を正しく読み取ったり自分の考えや解法の説明などを記述したりすることに課題が見られる。現行の小学校学習指導要領解説 算数編「算数科の目標」には、「『数学的な見方・考え方』は、数学的に考える資質・能力を支え、方向付けるものであり、算数の学習が創造的に行われるために欠かせないものである。また、児童一人一人が目的意識をもって問題解決に取り組む際に積極的に働かせていくものである。」とある。子どもたちが発見した問題を自分たちが主体となって解決していく過程において、子どもの発言やつぶやきの中にある数学的な価値を、授業者が見取り、価値づけ、共有させることで、子どもたちの「数学的な見方・考え方」を育てることが、本校の算数科における授業研究のポイントであると考える。

最初に研究・研修実施計画を立案し、モデル授業・職員研修を行った。その後、各学年層指導案検討会や外部講師招聘職員研修会を各3回実施し、最後に研究のまとめ職員研修を実施した。これらを通して、「数学的な見方・考え方を活かして主体的に考え、深め合う」児童の育成に貢献できた。また「教職員間の同僚性の向上」「教師個々の教材解釈の深まり」「教員の授業改善への意欲」が本件研究の活動で得られた。

【児童総数232名・職員総数18名】

○特別活動教育 （東京都） 山脇学園中学校高等学校 （西川 史子 校長）

〒107-8371 東京都港区赤坂4－10－36

研究主題 「大学・企業連携によるデータサイエンス授業の実践」
～感性に基づく意思決定の支援～

＊近年データサイエンスの重要性が高まる中、実践的な学びの機会を提供することが求められている。本研究では、大学や企業と連携し、「感じ方」に関するアンケート結果を統計的に分析することで、多様な価値観の理解を促すデータサイエンス授業を実施する。本取り組みを通じて、生徒がデータの活用方法を学びながら、感性に基づく意思決定の可能性を探ることを目的とする。

本研究では、大妻女子大学及び株式会社コーセーと連携し、中学3年生を対象とした実践的なデータサイエンス教育「YK カンセイラボプロジェクト」を実施した。

「生徒が自分ごとにできる」スキンケアをテーマとし、アンケートと商品の官能評価を実施。共同開発した専用アプリを用いて、生徒自身がクラスター分析や主成分分析などのデータ解析を行った。分析結果を基に最適な商品の PR 企画を立案、コーセーにて発表した。身

近なテーマにより生徒の学習意欲や実践意欲が劇的に向上し、大きな成果を上げることができた。

【生徒総数855名・教員総数41名】

○総合学習教育 （京都府） 木津川市立泉川中学校　（塩見 優典 校長）

〒619-1142 京都府木津川市加茂町大野烏田75

研究主題 「地域の花"アジサイ"の栽培活動を軸とした地域とつながるふるさと学習」
～めざせスマート農業！水耕栽培の挑戦～

＊地域の花として親しまれているアジサイを知り、育て、発信する活動を通して、地域とつながるふるさと学習の実践を行う。また、栽培活動においては、水耕栽培にも挑戦し、どのようにすれば挿し木の成功確率が上がるのか探究活動も行う。

本年度は、岩船寺見学や校内観察（顕微鏡観察・スケッチ、ガクアジサイと本アジサイの比較）に加え、木津高等学校システム園芸科の辻先生の講話を通して、アジサイの特徴や栽培のポイントを学んだ。その上で挿し木に取り組み、辻先生や昨年度経験した2年生アドバイザーの支援を得ながら、切り方や用土の水と土のバランスを意識して作業を行い、iPadのタイムラプス機能で成長の様子を記録した。水耕栽培では大型装置2台（循環式を含む）を運用したが活着が伸びにくく、対照的に発泡スチロールを用いた完全屋外・水換えなしの管理で成長が見られたことから、環境条件の整理が今後の課題となった。成長した苗は校内に植え替え、酷暑期の枯死を踏まえてエタノールによる高温耐性強化の探究も計画している。成果は文化発表会、かもまつりでの発表、当尾文化祭でのポスター掲示により発信し、挿し木の取り組みはKCN京都の取材・放送を通して広く周知した。

【生徒総数 220 名・教員総数 27 名】

○地域連携教育 （高知県） 高知市立春野中学校　（小川 真悟 校長）

〒781-0304 高知県高知市春野町西分328

研究主題 「"持続可能な地域とともにある学校"の体制の構築」
～コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的推進～

＊持続可能な地域とともにある学校とは、教職員の人事異動に左右されずに、学校と地域が連携・協働して、「より良い学校より良い地域」を実現できる学校である。その体制を確立するための研究を進める。

学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進で、持続可能な地域とともにある学校の体制を構築する。

具体的に、学校運営協議会の充実、地域学校協働活動の推進、リーフレットの作成と配付、

めざす子ども像とPDCAに取り組んでいく。
「春野がめざす子ども像」を実現するために、コミュニティースクールの制度を最大限に活用し、コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的推進を進めてきた。その結果子どもの知徳体の大きな向上が見られ、地域ぐるみ教育が進んだ。

【生徒総数256名・教員総数21名】

○安全・防災教育 （福岡県） 中間市立中間南中学校 （尾中 勇 校長）

〒809-0021 福岡県中間市朝霧5—2—1

研究主題 「防災意識を高め災害に強い中間市を創る生徒の育成」

＊防災に強い町づくりには、防災意識が高く行動力のある人材を育成することが重要である。そこで、市行政や市内の各企業と協力し、中学生にできる防災行動指針を、体験学習やオンライン学習を通して策定することを目指した。
「教室の学びを社会で実践」をコンセプトに、地域課題解決型プロジェクト学習の一環として、リアルな社会課題である防災学習を実践した。
本研究では、「減災のために事前に必要な準備をする能力（自助）」「進んで他の人々や地域の安全を支えることのできる能力（共助）」の2点について、体験やオンラインを取り入れた教科横断的な学習を実施し、「中学生にできる災害時の防災行動指針」を策定し中間市役所に提案した。

【生徒総数304名・教員総数26名】

計1,200,000円

B. 教育現場等への助成

学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会及び医療の情報発信団体等に対して、支援のため助成を行う。研究テーマは、教科領域のほか、特別活動、道徳教育、情報教育、障害者教育、家庭教育、国際理解教育、環境教育医学医療情報の発信、AIによる教育及び教育技術の改善等の分野としている。

○学習評価教育　学習評価研究会

（代表者：東條 正興／千葉県教育庁指導主事）

〒277-0863 千葉県柏市豊四季945—1450

学習評価の改善と充実のための研修プログラム開発

＊児童生徒の学習状況を的確に捉え、教員が指導改善を図るとともに、児童生徒が学習改善を図るために、学習評価の在り方は極めて重要とされている。しかしながら、教員研究において、学習評価について理論的かつ実践的に学ぶ機会は、管見の限りほとんどない。そのため、学習評価に自信がもてない教員は少なくない。本研究会は、学習評価の改善や充実を図る研修プログラムの開発を通して、教員の指導改善・児童生徒の学習改善に繋げることをねらいとしている。

令和7年度から8年度にかけて、教員向け研修会を県内外で企画運営することを通して、学習評価の改善や充実を図る上で有効とされる研修プログラムを開発する。また、教員の指導改善・児童生徒の学習改善に繋がる実践研究等を、各会員で進めていく。

基礎研究として、週に一度の定例会（オンライン）を開催し、学習評価の関連書籍の読み合わせ及びデジタルポートフォリオ化、文部科学省中央教育審議会議事録の読み解き及びディスカッション等を行った。また、研究会員向けに専門の講師を招聘し研修会を2回実施した。その他教員等向けの研修会も2回実施した。これらを経て学習評価の改善に繋げることができた。

○グローバル・ワークショップ教育　城西国際大学グローバル・ワークショップ研究会

（代表者：宮澤 純子／城西国際大学看護学部教授）

〒283-8555 千葉県東金市求名1番地 城西国際大学

モバイル・アクティブ・ライブラリ（Mobile Active Library）としてのグローバル・ワークショップの実践と効果

＊本研究は、2023年より継続している、モバイル・アクティブ・ライブラリとしての小学生へのグローバル・ワークショップ（授業）を提供する大学生と授業を受ける小学生の双方に、実践を通してどのような効果がみられたかについて、検討することを目的とする。

東金市立鴇嶺（ときがね）小学校で、小学生が主体的に学ぶことができるように工夫した全3回のグローバル・ワークショップ（授業）（国際コミュニケーション、異文化理解、環境問題、ウエルビーイングのための行動）を留学生を含む大学生が実施し、授業の効果について評価検討することができた。

○理科教育　SCIENTIA

（代表者：高橋 政宏／藤枝市立青島中学校教諭）

〒426-0078 静岡県藤枝市南駿河台6―1―3―55

「科学のまなざし」を育む理科授業の開発と実践

＊魅力的な理科授業の教材や授業展開を開発し、それらの授業を実践することを通して、子供が主体的に科学的探究を行うことのできる姿勢である「科学のまなざし」を育むことを目的に以下の3点に重点を置き活動した。

①「探究の過程」を意識した魅力ある授業の開発

②「研究の過程」を意識した授業実践

③教師の豊かな授業スキルの習得

上記を行うため検討会を月1回行い、授業開発および実践の報告と検討を行った。授業開発は会員の所属校種や、担当学年に応じた授業開発を実践した。また特別企画として、理科教育の有識者を招き、実践をもとに議論することで、教師の教育観や授業スキルの向上に役立てることができた。

本取り組みを通して、会に参加した多くの教師が、魅力ある授業の開発及び事業実践、並びに教師の豊かな授業スキルの習得を行うことができ、授業実践に生かすことができた。。

○学習者育成　カード学習研究会

（代表者：樋口 万太郎／中部大学准教授）

〒561-0851 大阪府豊中市服部元町1―5―1

自立した学びを促すカード学習法の実践

＊本学習会は、樋口万太郎が 2024 年に開発した「カード学習法」の改善・発展を目的とし、オンラインを中心に年間を通じて活動した。カード学習法は、児童が知識をカードとして可視化・蓄積し、6段階のサイクルを通じて既習知識の活用と構造化を図る学習プロセスである。

今年度は2年生から6年生まで幅広い学年で実践が行われ、開発者以外の実践者でも既習活用の姿勢や表現力の向上が確認された。また、日本数学教育学会での発表を通じて外部の知見を得るとともに、カードサイクルが国際的な学習理論と整合する構造を持つことが理論的に整理された。一方、カードの統合まで到達する児童が少ないこと、振り返りの質の向上、学習の主導権を段階的に委ねる設計の精緻化が課題として残った。・

。

○国語教育　国際理解・海外子女教育研究会

（代表者：田野 健太郎／猪名川町立大島小学校主幹教諭）

〒666-0215 兵庫県川辺郡猪名川町島字賀島5

異文化間で生きる子どもたちを対象とした幼小接続期における言葉遊びの実践研究

＊本研究は、異文化間で生きる子どもたちを対象とした幼少接続期における言葉遊びの在り方について実践的に検討し、成果と課題を明らかにすることを目的に行われた。社会の急速な国際化に伴い、多くの学校に外国人児童や外国にルーツを持つ児童、帰国児童が在籍するようになった時代の学校教育現場において、日本語指導の重要性はますます高まっている。本研究では、幼少接続期における言葉遊びの実践の重要性に注目し、その在り方を実践的に検討することで今後の教育実践の改善に資する新たな知見を得ようとした。
実際には、①授業公開・事後協議会の実施、②夏季研修会にて模擬授業及び授業検討会の実施、③在外教育施設のひとつである補習授業校を訪問しての授業実践、④外部講師による公開授業参観及び講話、授業公開後の指導助言などに取り組んだ。

○算数教育　算数教育ネットワーク

（代表者：濱川 法子／琉球大学教育学部附属小学校教諭）

〒901-2225 沖縄県宜野湾市大謝名2―15―8

実践と対話で算数授業を深める

＊　都道府県をまたぐ小学校教員がオンライン等で集い、全８回の定例会を実施し、それぞれの算数授業の実践を共有した。その実践について対話を通して成果や課題を伝え授業改善に努めた。具体的には、4月にメンバーの顔合せを行い今後の取り組みの確認を行った。その後の定例会で授業実践の紹介と議論を実施し算数授業の改善を図った。また、11月に和歌山大学教育学部付属小学校の研究大会に参加した。こうした活動を通じて、算数授業の質的向上を実現することができた。

○家庭教育　日本家庭教育学会

（代表者：佐藤 貢悦／筑波大学名誉教授）

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4－5(一社)倫理研究所内

（事務責任者：嚴 錫仁／筑波大学人文社会系准教授）

〒305-8871 茨城県つくば市天王台1－1―1 筑波大学

家庭教育に関する理論的・実践的研究

＊今年度は、学会創立40回を迎えて、これまでの家庭教育の研究・実践の歩みを振り返ってみる機会として、夏の大会および常任理事会、会報と研究誌の発刊、家庭教育師・アドバイ

ザーの交流会など、充実した学会活動を行った。
第40回大会は貞静学園短期大学を会場とし、「家族を思い、家庭に依り、共に生き共に育つ日本家庭教育学会の奮闘を振り返りながら」というテーマの下で、午前の部の9編の研究発表および午後の部の講演と質疑討議を行った。その他、家庭教育師資格認定(2回)、学術研究論文集『家庭教育研究』31号の刊行、会報の発行(115号、116号)を行った。また家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会を開催した。その他、これらの会務の運営にかかわる常任理事・幹事会(4回)および総会を行った。
家庭における子供の人間形成は、学校教育と同様、知・徳・体の全般にかかわる。したがって、家庭教育のあり方を検討するためには、家庭ないし家族とは何か、親子・兄弟等の人間関係はいかにあるべきか、子供の心身の全人的発達をいかに促すか、学校教育との関連はいかにあるべきか、等々、実生活における体験・反省を踏まえ、人文・社会諸学科をはじめ、医学・体育学・家政学等の諸学問による学際的研究を進めるとともに、さらに学校教育の実践的研究等とも密接なる連繋をはかりつつ、推進していく。

計900,000円

C. 野外教育活動について

野外教育(特に自然体験活動)の推進に向けて、指導者養成の講習会の実施、また、実践記録や情報等を集めて編集する機関誌「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行しておりましたが、諸般の事情によりしばらくは休止といたします。

D. 研究報告誌の刊行

前年度に研究助成を行った研究実践校や地域研究団体・学会等の研究成果を掲載した「教育研究情報」誌を年1回発行し、教育研究資料としてホームページに掲載する。
○「教育研究情報」の刊行
令和7年12月頃の発行を予定。前年度に研究助成を行った研究実践校、研究団体や学会等の研究の成果を掲載しホームページに掲載する。現在は第56号まで発行している。

計404、800円

E. 世界点字作文コンクールへの支援

視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築くため、オンキヨー株式会社と毎日新聞社点字毎日とが平成15(2003)年に創設、その後世界規模(現在は世界4地域128か国)に発展した。

国内・海外両部門で優秀作品を選考・表彰し、入選作品は、点字と活字を併記した作品集として、全国の盲学校、点字図書館、公共図書館1,200個所に寄贈している。尚、諸般の事情によりしばらくは休止といたします。

F. 医学・医療教育及び教育技術への助成・研修支援

医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修を実施・計画している学会・医療機関等に対して、MEDI@(メディアット)システムの導入、コンテンツ等の制作と配信、当該システムを利用した研修プログラムの整備・運営等に対して支援や助成を行い、この分野での e―ラーニングの普及・発展を目指す。

○公益財団法人日本リハビリテーション医学会

インターネットを利用しての教育・研修、専門医資格の取得・更新のための単位取得等を目的とした、e―ラーニングシステムの運用・管理、コンテンツの制作、配信などを支援する。

○一般社団法人日本専門医機構

インターネットを利用しての教育・研修、専門医資格の取得・更新のための単位取得等を目的とした、e―ラーニングシステムの運用・管理、コンテンツの制作、配信などを支援する。

○その他の学会・病院等への支援

岡山大学病院等の e―ラーニングシステムの構築・運用、コンテンツの制作、配信など、その利用推進を支援する。

計12,339,697円

以　上